

令和7年度 第1回 学校運営協議会

1. 日時 令和7年5月28日（水）9:00～11:00

2. 出席者

（1）学校運営協議会委員

【委員①】元県立高校校長

【委員②】PTA 会長

【委員③】地元（中瀬4区）自治会長

【委員④】社会福祉法人 管理者 社会福祉士 精神保健福祉士

【委員⑤】一般企業代表取締役社長

【委員⑥】浜名区振興課課長補佐 （欠席）

【委員⑦】社会福祉法人 児童発達支援センター長 医学博士

（2）校内教職員

校長 副校長 教頭 事務長 小学部主事 中学部主事 高等部主事 自立グループ主任
教務主任

3. 会議次第

（1）校長挨拶

（2）委員の任命

（3）会長挨拶

（4）自己紹介

（5）協議1 学校経営計画「目指す学校像について」
学部経営計画について

（6）校内参観

（7）協議2 「けやき祭について」
「高等部卒業後進路について」

4. 協議等記録

○校長挨拶

今年度で開校17年目。地域に愛されている幸せな学校であると誇りに思っているがその現状に甘んじることなく、これからも地域の皆様にどのように貢献できるか常に考え、地域と学校が互いに支え合い高め合う Win - Win の関係であり続けたい。

○学校運営協議会について：校長より

学校運営協議会の役割は「校長が作成する学校運営の基本方針を承認すること」「学校運営について、教育委員会または校長に意見を述べるができること」「教職員の任

用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べることができること」の3点。

○高野連加盟の報告：校長より

夏の大会に佐久間分校、熱海高校との合同チームで出場する。

(練習試合の様子を映像で見いただく)

一般の高校生と同じ目的・目標でグラウンドに立ち、同じ勝利を得るためにやっていることに障害の有無は関係なかった。選手だけでなく保護者も含めチームが一体になって応援している様子を見て、共生社会の縮図のような感じがあり、そんな社会を目指していきたい。

○委員の任命

○学校経営計画について：校長より

○学部経営計画について：各学部主事より

○意見交換

委員⑦：地域連携というが、子どもたちが住んでいる地域でもなく、学校の所在地域でもなく、子どもの生活地域という医療、教育、福祉であり、それが生活地域になると思う。連携というときに医療、放課後デイスタッフ、福祉計画相談員との連携も意識するとよい。目標の主語が全部教員または教職員である。看護師、事務職員、実習支援員等も含めて学校という意識をもって計画するとよい。

委員⑤：会社の研修でも笑顔が大切、対話と言われている。改革をしていく上で笑顔がないと話し合いにならない。ご機嫌でないと会話のきっかけにならない。対話を大切に行っていくのであれば意図的に時間を設定していかなければ難しいと思う。100%の達成を目指すのであれば、昨年度の達成できていない項目を分析し、具体的にどんなアプローチをしていくか検討が必要である。

委員④：働き方改革についてすごくハードルの高さを感じる。段階を踏んで職員それぞれが学校運営のどの部分で自己目標を立て、学校経営のどの部分で取り組んでいくのか具体的にしていって進めていくとよい。若手とベテランが考えている差をどう埋めていくかが課題。

委員②：目標に保護者があまり出てこない。地域という言葉を使うときに保護者も含めて考えてほしい。卒業後は居住地域で生活していく。地域の捉え方を広げて考えてほしい。学習については学校でできるようになったことを家庭でもできると実際の活動としてこんなことができるようになったと親としても安心する。

校長：確に対話は難しいと思う。学校全体で意図的にグループを作ってリラックスした状態で話せる場を考えている。アサーションの考え方で互いを理解しながらのコミュニケーションを学習しながら、場の設定をしていく。そこをきっかけに広がっていくとよいと考えている。

委員⑤：立場が上の人ほどご機嫌でなければならない。

○校内参観

○けやき祭について：副校長より

現状はコロナを経て、学部ごとの開催である。今後は全校行事として同日開催を考えている。もっと多くの地域の方に来ていただき、楽しんでいただき、学校のことを知っていただきたい。見ていただくだけでなく、一緒に準備にも関わってもらえるような活動にしていきたい。駐車場についても情報がほしい。

○学部の取り組みの説明：各学部主事より

○意見交換

委員⑤：会社の夏祭りではバザーが好評。人を集めやすい。駐車場は近隣企業の駐車場などお付き合いのあるところに依頼はできる。

委員③：駐車場として開校時はグラウンドを使用した。近辺は建物も増え難しい。少し範囲を広げて考えるとよい。費用は掛かるがシャトルバスというのものもある。

委員①：近隣の廃業した店の駐車場や病院、河川敷も考えられる。距離の問題はある。バザーについては近年、家庭での不用品が減っているため難しいかもしれない。

委員②：秋祭りのゲームコーナーの場で地域の方と一緒に保護者も協力していきたい。

委員③：けやき祭は大きな行事で学習のメインになる。子どもたちにどのようにしたらたくさんの方が来ていただけるかということを投げ掛けて考える。アイデアが出てくる、そこを大切にしていかなければいけない。開校時は学校から外へ出て子どもたちがチラシを配って子どもの声で伝えることで地域に届いた。子どもたちから意見が出るとよい。

委員⑦：教員の寸劇は子どもも保護者もととても喜ぶ。

○「高等部卒業後進路について」：R6 年度進路課長より

令和元年度以降の企業就労は全体の 21%程度で大半は福祉就労が現状。生活介護の利用が一番多い。課題となっているのは生活介護の定員数がいっぱい空きがない。生活介護連絡協議会を立ち上げていただき、定員や利用者数、年代など情報をまとめて保護者に提供していただいた。企業就労は製造業が多い。

○意見交換

委員④：生活介護連絡協議会の目標が、卒業後の行き先がない人をなくしたいと発足した。今後も進路担当、中学部から福祉へ行く生徒もいるので中学部の先生とも連携を取っていきたい。夏休みに学校を会場として会議をもちたい。

委員⑤：一般企業以外にも就労の選択肢はある。7月に産業フェアで企業の相談コーナーもある。働き方の選択肢を紹介することはできる。

委員④：生活相談担当者がいないと福祉サービス利用まで 1,2 か月かかってしまう。卒業までに必ずつながっていてほしい。

→高等部主事回答：卒業までに必ずつながるよう取り組んでいる。

○今後の予定：副校長より